



## LME銅、今月も米経済、景気対策と中国の景気動向などが力

(四面より抜く)

【住宅着工戸数】

五月の新設住宅着工は、持家、賃家及び分譲住宅が増加したため、全体で前年同月比九・九%の増加となった。また、季節調整済年率換算値では前月比〇・九%の減少となった。

新設住宅着工戸数は七万〇一七八戸で前年同月比九・九%増と、二カ月連続の増加。

新設住宅着工床面積は五八五千m<sup>2</sup>で前年同月比二一・六%増と、一カ月連続の増加。

季節調整済年率換算値では八七万五千戸で前月比〇・九%減と、五カ月ぶりの減少。

【伸銅品生産】

五月伸銅品生産量は前年同月比七・五%増加の六万一、四一〇トンと、五カ月連続増加した。また、一四品目全て前年同月実績を上回った。

品種別では、銅条は前年同月比三三・二%増と八カ月連続プラス。引き続き二〇一八年の同月実績を超えていた。銅条や銅箔の需要急増から国内生産が逼迫しているとの話が聞かれており、顧客の生産ラインを止める事態になつていていないこと。部品不足から自動車の一時的な減産があるが、下期に向けて自動車の生産が更に増えることから、伸銅品の顧客は部品確保を進めている。そのため、銅条などの伸銅品の引き合いは強い。

黄銅棒は前年同月比一七・三%増加と、四カ月連続のプラス。ただ、二〇一九年の同月実績を下回った。

【電線出荷】

日本電線工業会発表の出荷速報(推定)によると、前年比九・一%増の四万五、九〇〇t。うち国内八・一%増、輸出が八〇・四%増。

【輸出】

電気機器出荷が二六・六%減の四万二一〇七t。鋼スクラップが六二・二%増の三万六、九五〇t。

【輸入】

電気機器が九〇・二%減の九六t。スクラップが二・二%増の八、五一五t。

【見通し】

五月の自動車生産が六四・一%増。六月国内販売台数が九・一%増。

生産急増は半導体不足の影響はないとの認識。販売も増加。

今後生産、販売ともに増加していくか注視。

五月伸銅品生産量は前年同月比一七・五%増加の六万一、四一〇トンと、五カ月連続

増加した。また、一四品目全て前年同月実績を上回った。

更に増加するか注目。

・日本電線工業会発表の出荷速報(推定)によると、前年比九・一%増の四万五、九〇〇t。

うち国内八・一%増、輸出が八〇・四%増と、内外とも増加。

内外ともにプラスが続くか注視。

・銅輸出は電気機器が内需需要から減少、スクラップは外需旺盛に伴い増加。

・輸入は電気機器が内需需要、スクラップは内需需要から増加。

【スクランプ現況予想】

流通(一次卸屋)在庫は、銅価値が一七万円の高値安定から一時一〇六万円まで急落したタイミングで放出されたため、ある程度余裕あり。

需要面に関して、前月に続き、半導体不足に伴う自動車需要の減少は结构性的ではなく、生産は急増傾向にある。しかし、原材料高値安定のため、メーカーはスポット買付に徹しているが、思うように入らないメーカーが高値買付の傾向も見受けられる。

【LME・為替予想】

今月は①米経済、景気対策と②中国の景気動向、原料価格抑制策に左右される。

①に関しては

バイデン米政権は二十四日、米国で超党派で一二兆ドル規模のインフラ投資が合意されたことから、米景気は回復傾向が続くのではないか。

②に関しては

今回の超党派によるインフラ投資法案の合意は、共和党が米国雇用計画のなかで賛成できる項目であるインフラ投資(ハーハードインフラ)を中心にまとめた内容。

十六日に発表されていた五月の中国工業生産の伸びが四月の九・八%から八・八%に鈍化したうえ、二十七日には利潤の伸びが同じく五七%から三六・四%に大幅に減退したこと、中国政府による原材料高騰への取り締まり強化策の実地も、効果があまりなかつたこと。これらを踏まえた七月の銅価格は九五〇〇・一万〇〇〇ドル(セツル)との予想。

ドル円値は一〇九円一一一円(TTM)台を予測。

銅建値に関しては、一〇四万円一一一万円程度と予測している。